

中聴支内第330号
令和6年9月12日

創立記念日を迎えるにあたって

大阪府立中央聴覚支援学校
校長 吉田 伸哉

9月13日、本校は創立124周年を迎えます。

本校は明治33(1900)年9月13日に、実業家の五代五兵衛翁により私立大阪盲啞院として現在の大阪府中央区本町に開学しました。初代校長には我が国の盲啞教育の鼻祖であり京都盲啞院院長であった古河太四郎を迎えました。以来、自然災害や戦災によるたびたびの移転を経て、難波の宮跡近くの上町に学び舎を構えています。

本校の長い歴史のなかには、きこえない、きこえにくい子どもたちのために通い続けた親子や教職員、関係機関の皆さまによる数々のドラマがあります。多くの先輩たちが市ろう（中央聴覚支援学校）で、ことばを獲得し、学びを深め、志をもって巣立っていきました。

口話教育が日本中を席卷するなか、手話も必要であることを叫び、子どものきこえの特性にあったコミュニケーション方法で教育をすべきであるという「適性教育」も強く訴えました。この教育方法は「ORA システム」として、現在の多様な教育の在り方に通じるものであります。平成22(2010)年、創立110周年の佳節に制定されたスローガン「手話とともに未来へ」に込められた本校の原点は、手話がきこえない人にとっての言語であるとの認識が広がる今、ますます輝きを増しています。

未曾有の世界的危機といわれたコロナ禍をとおり、今の子どもたちは「レジリエンス(困難を乗り越える力)」が養われてきました。そうした子どもたちこそ、将来、地域社会や世界のさまざまな問題に挑戦していく人材へと成長できると信じ、保護者や関係者の皆さまと力を合わせて取り組んでまいります。今後ともご支援ご協力をお願いいたします。

